

大船渡市スポーツ施設整備基本計画（案）に対する意見の概要及び市の考え方

No.	区分	意見の概要	市の考え方
1	<p>VII 個別施設計画 VIII 主要施設の詳細検討 1 市営球場の建替再整備に係る検討について</p>	<p>気仙の中核都市として、総合運動公園の整備が重要課題である。整備場所の第一候補は長洞地区、次の候補地が旧北日本プライウッド跡地周辺。東北大会等も誘致できるような施設の整備を希望する。 また、末崎町の市営球場は、第二球場とするのがいい。</p>	<p>人口動態や厳しさを増している財政状況を踏まえ、本計画の上位計画に当たる「大船渡市公共施設等個別施設計画」において、公共施設の保有量の適正化を図るため、令和8年度までの公共建築物の具体的な縮減目標を定めています。 新たな施設整備に当たっては、その必要性と整備・維持管理コスト、既存施設の利活用などに関し、中・長期的な視点の下、慎重な検討が必要となります。 また、「VIII 主要施設の詳細検討」において、市営球場の建替再整備の候補地として、公有地である3か所をあげており、整備に当たっては、更に関連する検討を深めてまいります。 (関連記述:計画本文 37, 46 ページ)</p>
2	<p>VIII 主要施設の詳細検討 1 市営球場の建替再整備に係る検討について</p>	<p>市営球場の建設に必要な4haの面積の規模・様態は何か。 末崎町は中学校の統合に加え、人口減少・高齢化の中で「にぎわいの創出」による地域振興が不可欠である。末崎町への再整備で基石海岸の観光客誘客にもつながり、整備環境として様々な有効性に富み、市としても最大の起爆剤になると考える。</p>	<p>「VIII 主要施設の詳細検討」において、市営球場の建替再整備の検討の視点として、屋外体育施設の建設指針（公益財団法人日本体育施設協会屋外体育施設部会編集）に示す公認野球場の規格の確保をあげているほか、現市営球場より充実した施設を目指し、十分な駐車場の確保などのため、約4haの用地が必要と想定しています。 また、現市営球場用地に末崎中学校用地を含めても、約4haには及ばないところです。 (関連記述:計画本文 46, 48 ページ)</p>
3		<p>市営球場の整備存続が「にぎわいあるまちづくり」の推進のための重要な取組みであると認識しており、現施設を改修整備し存続することを強く求める。</p>	<p>市営球場については、「VIII 主要施設の詳細検討」の中で、約4haの用地確保が必要であると見込んでおり、現市営球場用地に末崎中学校用地を含めても、約4haには及ばないところです。 (関連記述:計画本文 46, 48 ページ)</p>
4		<p>既存施設の長寿命化を図ることが財政的に最も優位であると考え。また、高台に立地しているため、津波の際も安全である。 設備不足のデメリットは、工夫することで解消できる可能性が大きく、外野照明の整備は、技術的に解決できない問題では</p>	<p>現市営球場は、市内スポーツ施設の中で最も古く、建替再整備が必要との施設評価結果になったほか、照明設備の欠如や駐車場の不足など多くの課題を抱えていることから、現施設の長寿命化による対応は難しいと考えます。 また、地域連携による施設利用に</p>

		<p>ない。        気仙管内における地域連携による施設利用も積極的に考えるべき。</p>	<p>については、建替再整備の検討の視点として、広域連携の推進による利活用の促進をあげるなど、重要と考えています。        (関連記述:計画本文 45, 46 ページ)</p>
5		<p>人口減少に伴い、市の財政も厳しくなることが想定される。市営球場の新たな建設は多額の事業費が見込まれることから、現球場を硬式野球もできるよう整備（大改修）して活用してほしい。</p>	<p>現市営球場は、市内スポーツ施設の中で最も古く、建替再整備が必要との施設評価結果になったほか、照明設備の欠如や駐車場の不足など多くの課題を抱えていることから、現施設の改修による対応は難しいと考えます。        (関連記述:計画本文 45 ページ)</p>